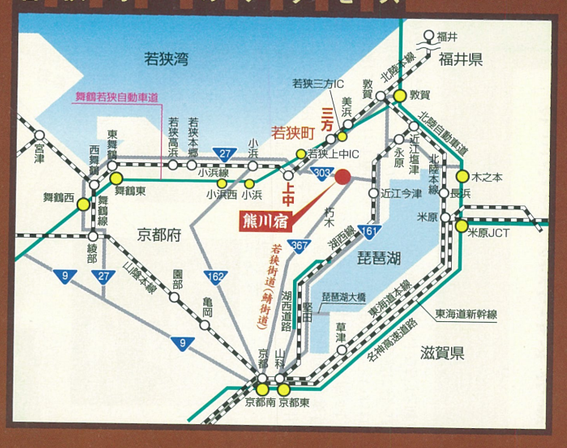
wakasa

JAPAN HERITAGE
日本遺産

重要伝統的建造物群保存地区

若狭鯖街道 熊川宿（くまがわじゅく） ガイドマップ

若狭町へのアクセス



●車をご利用の場合

【京阪神方面より】

- 京都東ICから西大津バイパス、湖西道路、国道161号を滋賀県高島市今津町へ、滋賀県高島市今津町から国道303号を小浜方面へ。
- 京都市内からは、国道367号を北上、大原、途中、朽木を経て、保坂から国道303号を小浜方面へ。
- 神戸方面からは、中国自動車道吉川JCTより舞鶴若狭自動車道を走り、若狭上中ICで降りて、国道27号を小浜方面、国道303号を滋賀県高島市方面へ。

【中京方面より】

- 名神米原JCTから北陸自動車道を敦賀方面へ、敦賀ICで降りて国道27号を小浜方面、国道303号を滋賀県高島市方面へ。
- 北陸自動車道木之本ICで降りて国道8号、303号、161号を滋賀県高島市今津町へ、滋賀県高島市今津町から国道303号を小浜方面へ。

●JRをご利用の場合

米原駅 —30分（北陸本線）→ 敦賀駅 —60分（小浜線）→ 上中駅 —10分（JRバス若江線）→ 熊川宿

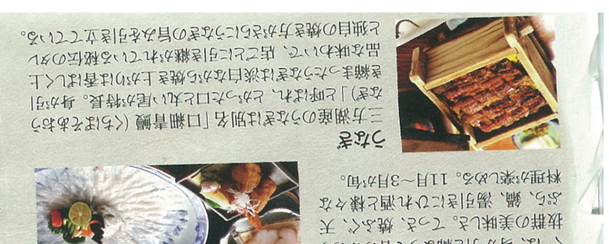
京都駅 —50分（湖西線）→ 近江今津駅 —30分（JRバス若江線）→ 熊川宿

発行

wakasa 若狭町

〒919-1393 福井県三方上中郡若狭町中央1-1
TEL.0770-45-9111 FAX.0770-45-9119
URL•http://www.town.fukui-wakasa.lg.jp/kankou/

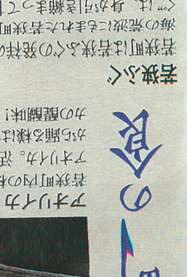
2015.12



鯖街道の歴史

鯖街道

古代、若狭は、朝廷に食料を献上する御食国（みけつくに）のひとつでした。日本海で獲れた魚や貝が遠路はるばる京都へ運ばれ、いつの頃からか、「京は遠でも十八里」と言われるようにもなり、特に18世紀後半からたくさんの鯖が若狭の海で陸揚げされ、「鯖街道」と称されるようになったのです。与謝蕪村も鯖を背負い都に入る若狭の人々が目に止まったのか「夏山や 通ひなれたる 若狭人」と詠んでいます。



熊川宿の誕生

秀吉に重用され若狭の領主となった浅野長政は、天正17年（1589）に熊川が交通と軍事において重要な場所であることから、諸役免除して宿場町としました。以来40戸ほどの寒村が200戸を超えるような町となりました。

平成27年4月には、「御食国若狭と鯖街道」が日本遺産第1号に認定されました。

熊川宿のイベント

熊川いっぷく時代村（毎年10月開催）
熊川宿を舞台に開催されるイベント。町並みに展開される山車の巡行や、平成の名水百選の前川でブリキの金魚を競争させる「ブリキの金魚レース」など、盛り上がりを見せるイベントが多数開催。そのほか、熊川名物の「長操鍋」など地元の味を堪能出来る屋台の出店など楽しい内容が盛りだくさん。

熊川宿をご案内します

観光ボランティアガイド「若狭町の語り部」

料金　ガイド交通費　1,000円/1人
（1週間前までにお申込みください）

ご予約・お問合せ先　若狭町役場観光交流課
TEL:0770-45-9111 FAX:0770-45-9119

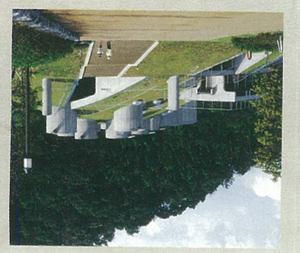
※ガイドの都合により、ご案内できない場合もございますので、ご了承ください。

若狭町のみどころ

輝きと優しさに出会うまち

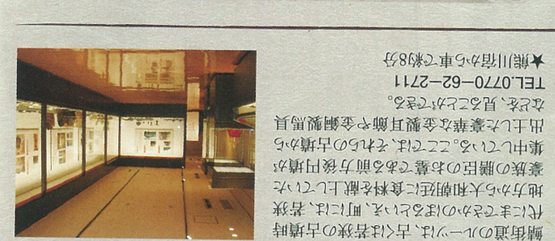
瓜割の滝
環境省が選定した「名水百選」の一つ。酷暑の夏でも枯れることなく湧き出る清水は「瓜を割る」ほどに冷たいと言われています。一説では、神聖な「水の杜」として大切にされ、天然の湧水を求めて、まろうド水が」として訪れる人々は後を絶たません。平成18年1月には「ふくいの おいしい水」に認定されました。
★熊川宿から車で約10分

三方五湖
若狭湾国定公園の代表的な景観地。三方・水月・菅・久々子・日向の五湖を総称して三方五湖と呼んでいる。五湖の周辺は、常神半島を含めた地域が、三方五湖として国の名勝に指定されている。ハイキーラインの梅丈岳山頂からは、広がる日本海、静かな五湖が一望できる。湖はそれぞれに水質が異なるため、色が違って見えることから、"五色の湖"と呼ばれている。平成17年11月「ラムサール条約湿地」に登録。また水月湖底の堆積物は「水月湖年縞」とよばれ、地質学的年代の世界標準として国際的に注目を集めている。
★熊川宿から車で約35分（ハイパーラインパル山頂まで）

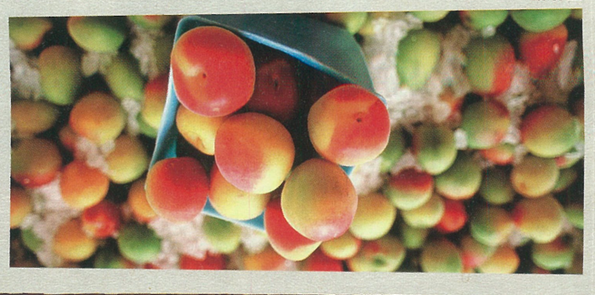


若狭三方縄文博物館
若狭三方縄文博物館「DOKIDOKI館」は「縄文時代」をテーマにした全国でも珍しい博物館。鳥浜貝塚からの出土遺物を中心に、縄文時代の技術、暮らし、文化を紹介している。また水月湖年縞の実物資料も展示している。公園内には竪穴住居も復元されているほか勾玉づくりなどの体験（要予約）ができる。
TEL.0770-45-2270
★熊川宿から車で約25分

若狭町歴史文化館
鯖街道のルーツは、古くは若狭の古墳時代にまでさかのぼるとされ、町には、若狭地方から大和朝廷に食料を献上していた豪族の勝臣の墓であるとされる前方後円墳が集中している。ここでは、それらの古墳から出土した豪華な金製耳飾や金銅製馬具などを、見ることができる。
TEL.0770-62-2211
★熊川宿から車で約8分



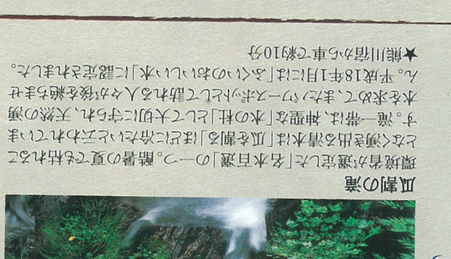
熊川宿



福井梅
三方五湖畔で育った福井梅はかいさく果肉が厚いのが特長。江戸・天保年間から150年の歴史を受け継いだ味は全国的にも高く評価されている。品種は主に「紀州（ベにさし）」と「剣先（けんさき）」が挙げられ、梅干しや梅酒をはじめ様々な梅製品に加工されている。

瓜割名水
天徳寺の山あいの岩間から湧き出る清泉は、1年を通して水温が変わらず、夏でも水につけたおいた瓜が割れるほど冷たいことから、古来より「瓜割の水」と呼ばれた。この湧き水は、幾重もの地層が自然のフィルターとなって長い歳月をかけて濾過した純度の高いミネラル成分が溶けこんでおり、全国名水百選に認定されている。

若狭ふぐ
若狭町は若狭湾ふぐの発祥の地。日本海の荒波にもまれた若狭町の"ちふぐ"は、身が引き締まって甘みがあり抜群の美味しさ。てっさ、焼ふぐ、天ぷら、鍋、湯引きにひれ酒と様々な料理を楽しめる。11月～3月が旬。

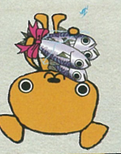


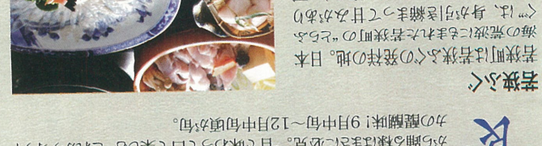
アオリイカ
若狭町内の様々な活魚料理の中でもぜひ味わってもらいたいのがアオリイカ。活造りのアオリイカが鮮やかに色を変え、足を動かしながら踊り様にまさに見、"目で味わう口で楽しむ"これがアオリイカの醍醐味！9月中旬～12月中旬頃が旬。

若狭町の食

鯖寿司
古くから若狭湾の海産物代表の鯖、昆布で巻いた名物の鯖寿司やばこ（脂ひのった焼き鯖寿司）は良く味わうと、旅の疲れを癒してくれる。

鯖（さば）スイーツ
蒸ましじゅうろ蒸ども、蒸ソフトに蒸湯などは様々な甘味が味わえ、旅の疲れを癒してくれる。





うなぎ
三方湖産のうなぎは別名「口細青鰻（くちぼそあおうなぎ）」と呼ばれ、ふっくらとした柔らかい特長。身がひきしまり、上質な脂がのり焼き上がりは香ばしく美味。品質にこだわる秘伝のタレと独自の焼き方がさらにうなぎの旨みを引き立てている。

重要伝統的建造物群保存地区

若狭鯖街道 熊川宿

くまがわじゅく

大陸文化の受け入れ口の
ひとつであった若狭地方。
宿場町の面影を残す
熊川の町並み。
まちを通る若狭街道（鯖街道）は、
日本海と畿内を結んでいた。
この道を、多くの人や物、
そして文化が行き交った。
道を歩けば出会いがある。
この道を、今一度、歩いてみよう。

1階：熊川ゆかりの古文書の展示、鯖街道の説明、重伝建の説明（特に細川幽斎の書簡は見物）
2階：宿場で使用された道具、古地図の展示

宿場館（若狭鯖街道資料館）

昭和15年、伊藤竹之助翁が熊川村役場として建てたものが、平成10年に歴史資料館として生まれ変わりました。トスカーナ風の柱頭をもつ円柱や、中央に越屋根が付いた寄棟瓦葺の屋根などの特徴ももち、昭和初期の熊川の一面を垣間見ることができます。

※レンタサイクル・貸ロッカー有
開館時間：9:00～17:00（4～10月）9:00～16:00（11～3月）
入館料：高校生以上200円
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）
TEL：0770-62-0330

菱屋（勢馬清兵衛家）

旧問屋で屋号を「菱屋」という旧家。格子と水路の取り合わせが美しい建物です。

旧逸見勘兵衛家住宅

伊藤忠商事二代目社長・伊藤竹之助翁の生家で、主屋、土蔵、庭が平成7年1月に、町指定の文化財となりました。その年から3年間をかけて「明るさ」と「空間」の確保をテーマに、建築家吉田桂二氏の設計により修理が行われ、外観は昔ながらの町家造り、内部はその雰囲気を生かした機能的な現代の住まいに生まれ変わりました。

開館時間：10:00～16:00（冬期は変更あり）
入館料：高校生以上100円
休館日：火・水・金（変更あり）
TEL：0770-62-0800

権現神社

上ノ町の上側にある、熊川では権現さんと称される社です。昔、上ノ町では、道の表面に白い石が出ると、村に火災や水害がおきたことがありました。そこで、村人が相談してお社を建てて、その白い石をお祀りすることになったのが、この神社のいわれであるとされています。鳥居額には、「火防・水雨神社」と銘があり、この神社の性格を表しているようです。

熊川番所

若狭と近江の国境に位置し、かつて「入り鉄砲に出女」の統制と物資への課税が行われていました。全国でも宿場内に残る復原された番所として貴重な歴史的建造物です。

開館時間：10:00～16:00（冬期は変更あり）
入館料：高校生以上50円
休館日：火・水・金（変更あり）

白石神社

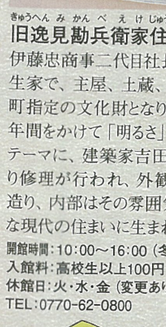
熊川地区の氏神であり旧指定村社で、祭神は、彦火々出見尊、白髭明神、小浜藩主酒井忠勝公、山の神が合祀されているということです。毎年5月3日に祭礼が行われ、山車が巡行します。

松木神社

若狭の義民松木庄左衛門が祀られている神社です。境内には昭和10年に庄左衛門の遺徳を顕彰するために建てられた義民館があります。熊川宿の中では桜と紅葉の名所です。

西山稲荷神社

伏見のお稲荷さんを勧請したといわれ、創建は江戸時代中期頃まではさかのぼると言われています。商売繁盛の神様として厚い信仰を受け、現在も「おひたき」という行事が、春と秋に行われています。



御蔵道

北川の船運の米が、この路地を通り、松木神社境内の蔵屋敷に至ったことにこの名の由来があります。

長屋道

この路地の奥に、町奉行手配下の足軽長屋があったことにこの名の由来があります。

中条橋

昔からたくさんの物資や人の往来を支えてきた中ノ町と上ノ町を結ぶ重要な橋。平成11年に架け替えられました。

大岩（子守り岩）

この上ノ町の大きな岩ではよく子供たちが遊びますが、けがをしたことがないそうです。そして、権現さんと関係がある岩であるとの話もあります。

家康公腰掛けの松の根元

得法寺

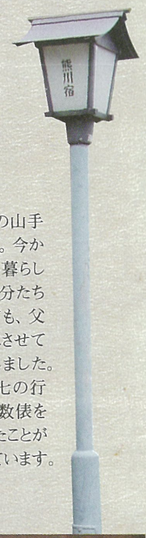
元亀元年（1570）に、織田信長は豊臣秀吉と徳川家康を従え、越前朝倉義景を攻めるため、京都から熊川を通り敦賀へ向かいました。このとき家康は得法寺に泊まったといわれ、境内の松に腰をかけたのが、今も東の隅に残る松の木であるとされており、「家康腰かけの松」と呼ばれています。

倉見屋荻野家住宅

熊川宿で最も古い町家で、問屋の形式をよく残しています。隣接する土蔵には、街道を行く荷物が納められました。平成26年1月、国の重要文化財に指定されました。

孝子与七の碑

下ノ町の入り口、街道の山手に小さな石碑があります。今から270年程前、貧しい暮らしの与七とその妻は、自分たちは貧しいものを食べても、父母には、御馳走を食べさせて孝行のかぎりを尽くしました。時の小浜藩主は、与七の行いを聞くに及んで、米数俵を与えて、その志をほめたことが「若州良民伝」にも出ています。



道の駅「若狭熊川宿」

TEL 0770-62-9111　P約30台　大型バス駐車可

四季彩館

特産品販売、レストラン、熊川宿展示館
休館日：木曜日
営業時間：10:00～18:30
※レンタサイクル有

豊かな自然の中で、今も昔も変わりなく旅人を迎えてくれる宿場町。

熊川宿の伝統的建造物群の特徴

熊川の町並みの特徴は、街道に面して多様な形式の建物が建ち並んでいるところです。全く形式の異なる建物が混在しながらも、連続性をもった町並みを形成しています。

熊川は国の重要伝統的建造物群保存地区です。

■ 町家の外観

町家の古いものは、二階の低い「厨子（つし）二階」で、新しいものは二階の高い「本二階」です。二階を本二階として一階と同じように使用するのは新しい傾向です。「厨子二階」の正面には、格子の付いた窓があり「虫籠窓（むしこまど）」と呼ばれています。屋根の上面がわずかに凸となる「起り（むくり）」をもち、瓦は光沢のない若狭産のいぶし瓦が葺かれ、雪止瓦も使われています。また、煙抜きのための「越屋根（こしやね）」も、所々で見られます。問屋であった家の正面入り口の柱には、馬をつなぐ「駒（こま）つなぎ」という鉄の輪が今も残っているところがあります。さらに、隣家からの延焼を防ぐために「袖壁卯建（そでかべうだつ）」を持った建物もあります。

駒つなぎ

虫籠窓

蔵と平入と妻入の家並み

■ 町並みの特徴

平入建物とは、棟を街道に対して平行させた建物のことで、街道側では軒が真直ぐに見えます。妻入建物とは棟を街道に対して直角に置く建物のことで、街道側では、屋根の三角の部分が見えます。真壁造とは柱を見せる形式のことで、塗込造とは柱や軒などの木の部分を壁で隠してしまう形式のことです。

真壁造

塗込造

前川　平成の名水百選
熊川宿の歴史的景観に欠かせないのが、豊富で流れの速い水路である前川です。家ごとに、「かわと」と呼ばれる水利施設が設けられています。

厨子二階

本二階

袖壁卯建

起り・越屋根

がったり

◀夕涼みや休憩に使う縁台。普段は折りたたまれています。